

記事を読んで、問いに答えなさい。
解答欄が足りない場合は、裏面に記すこと。

2020年 12月24日朝刊



調査は県の警戒レベルが「感染まん延期中期」に引き上げられた2日後の11月29日に、同市葵区の中心市街地78地点で実施した。4年連続で通行量トツプだった「JR静岡駅ビルバルジエ前中央地下道」はことしは2位となり、通行人数は前年比44・3%減の1万6932人に減少した。商議所の担当者は「電車の利用者減が響いた」とみている。

静岡商工会議所が23日までにまとめた静岡市中心市街地の通行量調査によると、総通行量は前年比34・1%減の29万673人と78地点で調査を始めた2011年度以来、過去最低となった。新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛が影響したとみられ、JR静岡駅周辺の通行量が減少するなど、人の流れが大きく変わった。

静岡の中心市街地 セノバ前1位 コロナ禍通行量34%減

が最も大きかった。静岡商議所によると、コロナ禍による

費者の外出自粛やイベントの中止、インターネットを利用した通信販売などの浸透がまち全体の通行量の低下につながったとみられるという。担当者は「回遊性の高いまちづくりのために、行政と連携して新たな策を練っていきたい」と語った。(経済部・牧野めぐみ)

1位になったのは前年2位の「新静岡セノバ前南口モール」(37・5%減)の1万6980人、3位は前年7位だった呉服町通りの「三保原屋前付近」(31・1%減)の1万3千2人だった。前年3位の静岡駅前・トラヤ前は53・4%減の1万417人と8位に下げ、減少幅

①図を参照し、回遊性の高いまちづくりのためにはどのようなルート設定をすれば効果的なのか、考察せよ。

②図を参照し、どの地点にどのような集客要素を設置すれば、地域経済がより活性化するか、考察せよ。

③現況のコロナ禍の状況とコロナ以後の回復期の場合とにおける、まち全体の通行量の増加対策を考察せよ。

年 組 名前

作問者: NIEアドバイザー 実石克巳(静岡高校 教諭)

(高校/国語)

<参考>①=心理学 人間行動学 地域行政学に関する問題、②=経済学 経営学 地域行政学に関する問題、③=経済学 経営学 地域行政学に関する問題